

せんぼ 通信 No.5

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「信じる」

子供が中学校から帰ってきて、「自転車がなくなっていた。誰かが間違っ乗っていったのかも・明日は出てくるかも」と。入学して1ヶ月、ピカピカの自転車がなくなっているのに、冷静で、おっとり・自転車よりも、その人好きにイライラ・学校でも探してくれたが来て来ず、数日後子供をつれて守山の駐在所に。

「ン?もう何日もたっているんじゃないか?盗まれたらすぐ警察に言わなきゃだめだろ」

「・・・」何も言えずにうつむく子。

あの・・・この子には盗まれたという意識がなく、それでわざわざ連れてきたのですが。

「そうだったのですか・・・わかりました」初めはこわい顔だったが、目をほそめ笑顔になって、子供に向き合ったおまわりさん

「遠藤君は、人を信じていたんだね・人を信じられる人は、心が広い人なんだ。遠藤君は心が広いんだね・でもなあ・100%人を信じてはだめだよ・10%は疑いなさい・わかったね・・・」

「はい・・・ありがとうございました」

「高速道路を、120以下で走ったことはないよ・・・」

そばで奥さまが、笑顔でうなずきながら・・・両方の手のひらを前に突き出し、「止めてー」のようなポーズ・・・え～そんな風にはみえないのですけど・・・

「自分の思いどおりになるのは、車の運転だけだからね(笑)・・・世の中、自分の思いどおりになることなんてひとつもないよ」と。

そんな生き方が、花も実もある人生になったのですね。熟年夫婦なのに、とっても明るく、仲よさそう・・・私はズシッと反省・・・思いどおりにならない幸ちゃんをにらんでいた・・・

はずかしいことに。

先月、ご縁があって桐生市へ・・・
やはり関東・・・風も、春風のように・・・
桐生市は、絹織物が盛んだった町
こちらは、養蚕が盛んだった山里
「けーごさま(蚕さま)」とよばれ、最高の「繭」をつくるため、だいじに、だいじに育てられ・・・
「繭」は、春・夏・秋・農家のみなさんの、愛の結晶のようにも・・・
子供の頃、ばっばの家に行くと、上居所とよばれる部屋に蚕さまがいっぱい・・・その後・・・
真っ白で、きれいな・・・きれいな「繭」に。
・・・同じ屋根の下の蚕さま・・・

